



資料19 南京特務機關

南京特務機關

一、工作人員

機關

松岡	功
佐藤	鶴雄人
小嶋	友子
馬淵	誠
丸山	進

二、工作開始期日

昭和十二年十二月二十四日

三、戰前南京市一設概要

面積 五二万平方
人口 約二〇八〇〇〇人
位置 揚子江ニ沿ヒ其ノ江口ヲ距ルコト約四〇〇軒、南京、上海間鐵路ノ延長約三一〇軒ナリ
交通 首都タリシ爲鐵路、公共四通八達シ且揚子江ニ臨メル

四、水陸交通

水陸交通共ニ至便ナリ
政治都市乃至消都市タル爲ニ、特設スルニ足ル物産ナ
新式工業ニ屬スル工廠モ若干設テ算スレトシタルモノ

五、南京特務工作一設概要

南京班第一回報告（一月二十一日提出）

皇軍占領後ノ南京市概況

一、緒言

南京市ハ南北約二里東西約一里半ノ地域ヲ占メ、四邊ニ堅固ナ城壁ヲ
有ラシ、今次事變前迄ハ人口約一〇六萬ヲ擁シ、國民政府ノ首都トシ
テ其ノ運籌、建設ニ多大ノ苦心カ拂ハレ居リタリ
去ル十二月十三日皇軍カ頑強ナル敵ノ抵抗ヲ排除シ、南京ヲ占領セル
際ニハ、人口モ著シキ減少ヲ示シ居リシモ、而モ尙逃ケ過レ城內ニ迷
路シ居リシ支那民衆ハ大人男子一〇萬、女子五萬、少年少女五萬計約
二〇萬ト推定セラレ、是等難民ノ處理如何ハ皇軍入城後即時ニ當面セ
ル大問題タリキ

二、治安宜宜ニ對難民問題

初メ二〇萬ヲ數ヘル是等難民ハ獨人ヲ一ベルヲ會長トスル國際委員
會ノ手ニ收容サン、市內中央西部一地域一外國人所有藥藥物多キ地點
ヲ割シテ之ヲ難民區トシ、食糧其ノ他生活品ハ總テ國際委員會ノ手ヲ
經シテ配給サレ居タリ
然ルニ皇軍入城後ハ市中ノ治安ノ恢復著シク、宣撫工作ノ進ムモ又見
ルヘキモノアリテ、一月元旦ニハ海關三氏ヲ委員長トスル南京自治委
員會カ成立サレ、茲ニ該會ハ一月五日二〇萬ノ難民ヲ國際委員會ヨリ
接收スルニ至レリ
尙我カ軍ニ於テハ、南京カ完全ニ皇軍ニ包圍サレ、逃亡ノ餘地全然ナ
カリシ點ヨリ推シ、此ノ難民中ニハ必スヤ多數ノ敗殘兵、不逞分子カ
潜伏シアルモノトシ、一月六日ニ至ル迄、毎日嚴重ナル搜查ノ行ヒテ
其ノ檢出ニ努メ、全員ヲ査問シテ多數ノ敗殘兵ヲ捕出セシカ其ノ他一
般無辜ノ良民ニハ、其ノ良民タルコトヲ證スル「安身ノ證」ヲ交付
シテ、安居樂業セシメタリ

併シ乍ラ、已ニ大半以上廢屑ト化セル南京ノ現狀カラ推シテ一〇萬ト
謂フ屋大ナ人口ノ救済ヲナスハ、極メテ困難ナル事ニ屬シ、尤ツ食糧
問題カ當面ノ重大問題トシテ日程ニ上リ來レリ。而シテ本件ニ關シテ
ハ當面ノ解決ヲシテ我軍ノ占領セル難民ヲ自治委員會ニ無償ニテ拂

以下ケ、自治委員會ハ原則トシテ之ヲ一設難民ニ買却スルコトトセリ
併シ難民中ニハ金ナク家ナク且労働能力ナキ者モ多数アリ、之等ニ對
シテハ止ムナク無償交付ヲナスコトトセリ

斯カル救済策ヲ以テシテ、尙現在（一月二十一日）ニテ今後一箇月分
ノ食糧ヲ貯蓄シアルカ、野菜、薪、魚類等ハ殆ト缺乏ヲ來サムトシ
アル爲、其ノ対策トシテ、特定ノ者ニ限り許可ヲ與ヘテ城外へ出立、
缺乏物資ノ搬入ニ當ラシメムト、計劃立案中ナリ。又食糧問題ノカ
ル現狀ト難民ノ轉徙感置ヲ速ニ購メントノ見地カラ難民ニ對シテ其ノ
便益ヲ審視シ、出來得ル限り速ニ正業ヘノ復歸實現ヲ考究中ナリ
既ニ特殊技能ヲ有スル者約三〇〇名（其ノ扶養家族ヲ合セハ約七五〇
〇名）カ鐵道、水運、電燈其ノ他ノ業務ニ便役サレ或ハ城内清掃人夫
トナツテ勞力ヲ提供シアリ他方小商賣ノ獎勵計劃モ漸ク其ノ緒ニ就カ
ムトシツアリ

難民區カラ現住地ヘノ復歸ハ上述主旨ノ下ニ去ル一月十日カラ發行サ
レ中央地區ニ定メラレタ日本人街ヲ除ク全市ヲ五區ニ分チ、各區ニ區

長ヲ置キ、徐々ニ難民ヲ各區ニ移住セシメ、家ナキ者ニハ宿舍ヲ世話
シ、一月末頃ニハ六區各區ヘノ分布ヲ完了セシメ、難民區ハ其ノ時正
式ニ解消スル豫定ナリ

次ニ各復歸ヲ終了セル難民ニハ保甲制度ヲ基礎トスル自治生活ヲ行ハ
セ、治安ノ維持ニハ警察隊之ニ當リ、連坐法ニヨル取締方針ヲ採ル等
ナリ。又城内外ノ通行ハ食糧問題解決、城内清掃ヲ俟ツテ一般ニ許可
スル豫定ナルカ、目下ハ城内外ニアル家族トノ關係其ノ他ヲ考慮シ、
城外近傍ノ者ニノミ其ノ自由ヲ若干認メアリ

三、自治委員會ノ活動

過渡期ニアル自治委員會ハ現在未タ財源トナスヘキモノナキ爲、今後
繼續買却ニヨツテ得ル金額及豫定案トシテノ人力車税（約一千圓）ア
リノ外、魚類、野菜等ノ市場ヲ自治委員會直營下ニ開設シ其ノ收入
ヲ財源ノ一部ニ充テ、將來ハ戶口徴納稅等ノ方法ヲ以テ經費ノ抽出ヲ計
ル方針ナリ。從ツテ現在ノ自治委員會ハ尙搖籃時代ノ城ヲ脱セス、未
タ特記スヘキ實績ハ皆無ナルモ成立ニ際シテ發表セル宣言ハ次ノ如シ

四、國民軍隊ノ黨專政ヲ排除シ、民衆ヲ基礎トスル政治ヲ實行ス

（二）各地報日團體ト合作シ、日支提携ノ實ヲ懸ケ以テ東洋平和ノ確立ヲ
期ス

（三）防共政策ヲ實行シ抗日排日思想ヲ總論ニ排除シ、歐米依存ノ觀念ヲ
矯正ス

（四）產業ヲ振興シ、民衆ノ福祉ヲ増進ス

（五）賦税、材ヲ登用シ、民衆自治ノ徹底ヲ期ス

以上ノ宣言ニヨリ、委員會ハ總務、財務、教育、警務、工商、交通、
各課ニ分レテ夫々活重ニ入り、現在ハ對難民問題、屍體ノ處理、城内
各所ノ清掃、其ノ他衛生施設ニ全力ヲ擧ケツアル外、難民ノ救済登
記工作ヲ行ヒ、難民ノ復歸ニツレ、其ノ治安維持ノ爲去ル一月十日迄
警察ヲ設置セリ。現在人員ハ百六十名ニシテ、他ニ三十名ノ消防隊カ
附設サレアリ

四、復興南京ノ建設ト交通恢復狀況

南京建設ニ先ツ最も必要ナル建設ト水道ハ、我軍ノ非常ナル努力ノ結果
十二月三十一日其ノ復舊ヲ見ルニ至レリ、即チ、豫定前整備セル千三
百名ノ從業員ニ比スレハ僅ニ其ノ十分ノ一ニモ充タヌ僅カ八十名ノ作
業隊ハ、兎ク大破損ヲ受ケタ施設復舊ニ當リ、寒氣ヲ冒シ、材料不足
ヲ克服シ、不眠ノ作業ヲ續行シ、復舊工率ヲ完成セリ。電燈水道トモ
軍區保ハ殆ト大半其ノ配電、送水ヲ完了シ、逐次在住邦人其ノ他ニ及
ホス設備ニ達シアリ

目下水道ノ水源地ハ南京城西方揚子江岸ノ水道廠ニシテ、電燈ハ南京
市南方約十軒上坊内ノ發電廠及下坂ノ電燈廠ノ送電ニヨル
交通線廠ノ中、鐵道ハ鐵道部設立並鐵道從業員不斷ノ努力ニヨリ、現在
既ニ、南京―上海、浦口―餘縣―明光、南京―蕪湖ノ三線何レも通
シ、就中蕪湖線ハ鎮江附近トシテ其ノ破壞ニヨリ著シキ妨害ヲ蒙リ居
リシモノナルモ、其ノ修繕益々クナリ、二日間ノ要セル上海―南京間モ
一月十二日ヨリ僅ニ十二時間ニテ足ルコトニナレリ

五 日本人街

南京復舊事業ノ進展ト交通機關ノ恢復ニツレテ、日本人ノ南京ニ進出シ來ル者漸ク其ノ數ヲ増加シ來レルニ鑑ミ、其ノ居住及營業ノ便宜ヲ計ル爲、市中心區ニ日本人街ヲ設置シタリ。日本人街ハ市内目黒ノ地點ニテ、廣サ約二百二十町歩、各酒保ヲ初メ飲食店、時計店、理髮店、雜貨店、旅館等漸次其ノ數ヲ増シ、現在ノ開店數約六十軒、外ニ開店申込中ノモノ數件アリ、華人、軍屬關係以外ノ在住日本人數約三百名ニ達ス。尙軍トシテハ、日本人街ノ今後ノ發展ハ急速ニ行ハルモノト思フ。方針ノ由ナレハ、日本人街ノ今後ノ發展ハ急速ニ行ハルモノト思フ。但シ物資運搬ノ方法ヲ缺ク爲、酒保關係者以外ハ商品搬入ニ多大ノ困難ヲ感シツツアリ。又邦人中、漢口引揚邦人ニハ特ニ便宜ヲ與ヘラレ、目下在住者ノ大半ハ彼等ニ依テ占メラレ、所謂一旗組ノ入ノ餘地殆トナシ

六 國際關係

南京ハ國民政府ノ首都タリシ關係上、各國大公使館初メ各種機關

存スルモノ少ナカラス、動亂支部ヲ機關クル現下各國ノ微妙ナ動キト相俟ツテ、急變後南京ニ於ケル列國官民ノ行動ハ極メテ大觀スヘキ狀態ニアリ。國際委員會ノ活動ノ如キモ其ノ尤タルモノナリキ。上述ノ如ク猶人ジョーベルヲ會長トスル國際委員會ハ、難民ノ救済、保護ノ爲國民政府ノ南京放棄、與地移轉ニ際シ、相當額ノ資金ト成禮ヲ受領シ居リタルカ、彼等ハ其ノ食糧ヲ一俵九元ニテ難民ニ賣却シ居タル事實アリ。從テ自治委員會カ難民區ヲ接收シタル後ニ於テハ、爾後救済費行ノ基金トシテモ、石資金ヲ自治委員會ニ交付スヘキカ當然ナリシニモ拘ラス、確タル證據ナキヲ盾ニ之ヲ拒ミ、且又國際委員會解散後モ依然トシテ難民ニ對スル救済ヲ續ケ、表面慈善事業タルヲ標榜シ。世人ノ猜疑ヲ避ケツツモ、其ノ裏面ニアツテハ、自己ノ利益ニ汲々タル一ツ、難民ヲ手馴ケ目治委員會ノ團體ナル發展ヲ妨害スルカ如キ點多ノ行動アリタリ。而モ抑カル程度ハ不逞分子ノ利用スル所トナル傾向アリタレハ、我々ニ於テモ夙ニ警惕ノ眼ヲ注キ居リシカ、本年ニ入り列國庇護ノ下ニ潜伏シ居タル敗殘兵、不逞分子ヲ矢張り早ニ檢出逮捕セ

リ。

又、一月初旬ニハ英、米、獨ノ外交官武官等相次イテ南京ニ來リ、被害調査、權益保護ヲ名目トシテ活動ナル動キヲ示シツツアリ。此ノ行動ニ對シシモ、當初若干ノ問題發生ヲ見シモ其ノ後其ノ何レモ解決ヲ遂ケ、今後該問題ニ關スル紛爭ノ憂ハ除去セラレタルモ、然シ、今後トモ各國外人ノ動靜ニ就キテハ充分ノ注意ヲ必要トシアリ

南京班第二回報告（二月中狀況）

軍 概 況

一、南京市自治委員會

(一) 南京市自治委員會ノ成立

(二) 區公所ノ開設

(三) 南京市警察廳

(四) 自治委員會ノ財政

二、難民區ノ解散

(一) 國際委員會ニ對スル態度

(二) 難民ノ居住地復興狀況

三、治安

(一) 救護兵及抗日分子ノ擯出

(二) 一般治安狀況

四、市街清掃

(一) 清掃隊ノ編成

五、救濟
(一) 避難民之救濟
(二) 救濟ニ依ル救濟

六、難民救濟
(一) 公益事業従業員ノ復職
(二) 軍用苦力
(三) 各區内ニ小賣市場ヲ開設
七、物資供給
(一) 軍需交換所ノ設置
(二) 自治委員會ノ食糧直買
(三) 物資蒐集ノ爲調査隊ヲ各地ニ派遣
(四) 中央官署市場ノ開設
(五) 對支那人販賣商店ノ開設

一、南京市自治委員會

(一) 南京市自治委員會ノ成立

入城當時ニ於テハ城内難民數ハ大約二十五萬ト謂ハレ國際委員會ノ設
定セル所謂難民區ニ蟬集シテ宛然乞食ノ都ナルノ形勢ヲ呈シ治安維
持復興進歩上甚シキ障害ヲ形成シタルノミナラス國際委員會ノ統制
下ニ於テ所謂難民依存ノ弊風ヲ難民ノ強ク侵蝕セシムルカ如
キ傾向ニアリタルヲ以テ可及的早急ニ自治委員會ヲ組織セシメ自立
自治ノ施設ヲ確立スヘク特務機關ノ指導下ニ昭和十二年十二月二十三
日自治委員會籌備委員會ヲ組織セシメ委員官ニ於テ施設ノ準備ヲ
完了シ昭和十三年一月一日政權ニ於テ南京市自治委員會ノ正式發會
式ヲ舉行シ其ノ廳舎ヲ舊首都警察廳ニ置キタリ
自治委員會ノ組織ハ附表一參照

(二) 區公所ノ開設

自治行政ノ確定及次第所記ノ如キ難民區解散即チ難民ノ原住地復歸
促進ノ觀點ヨリ區公所設置ノ必要ヲ痛感シタルニ依リ自治委員會ヲ

指導シテ城内四區、下關一區、計五區ノ區公所ヲ計畫シ一月十日先
ツ城内昇州路ニ第一區公所ヲ開設シ其次第一、二、城內下江沿柳
第三、城內珠江路大砂嘴巷、第五、下關中山橋無錫路、第四、傳佐
國無錫路、ノ順序ニ一月末日迄ニ於テ全區公所ノ開設ヲ完了シ尙中
華門外ノ城外區ヲ計畫中ナリ
區公所ノ組織ハ附表二參照

(三) 南京市警察廳

南京城攻陥、情勢ニ鑑ミ、敗殘兵及抗日分子、相當多數難民中ニ潛
シアリシコト難民ニシテ之カ懷柔ハ困難ノ極ニシテ難民兵亦城
内外並壞ニ直リ相當多數難民在シアリシヲ以テ石搜索ノ必要モアリ入
城難民部隊ニ協同シテ南京ノ治安ヲ早急ニ確立セシムヘク自治委員會
正式成立後直チニ警察廳ノ開設ニ關シ計畫ヲ進メ一月十日舊首都警
察廳官ニ於テ發會式ヲ舉行シタリ
警察廳各區公所ノ設置ニ伴ヒ各區ニ警察局ヲ設ケ特務機關治安工作員
及難民隊指導ノ下ニ治安ノ任ニ當リ相當ノ成績ヲ擧ケツツアリ

然レトモ現下尙軍隊及難兵ヲ以テ治安ヲ維持シアルハ首ヲ俟タサル
所ナルモ直接ノ治安維持ハ將來軍隊ヨリ難兵ヘ難兵ヨリ自治委員會
ニ移行セシムル課企圖シアリ
警察廳ノ組織ハ附表三參照

自治委員會ノ財政

一月ニ於ケル自治委員ノ收支ヲ對照スルニ

(1) 收入 三、一〇八五・〇〇

内 詳

派遣軍司令官賜給

一〇、〇〇〇・〇〇

米穀及麵粉販賣

一七、八九五・〇〇

兵ノ他雜收

三、一九〇・〇〇

(2) 支出

三〇、五二四・〇〇

内 詳

總務課 (自治委員本部ノ會計ヲ司ル) 一八、四〇〇・〇〇

財務課

三〇〇〇・〇〇

工商課

五五〇・〇〇

救済課

二〇〇・〇〇

交通課

七〇〇・〇〇

警察課及消防課

五二〇〇・〇〇

第一區公所

二〇〇〇・〇〇

第二區公所

二〇〇〇・〇〇

第三區公所 (月末開設)

三〇〇〇・〇〇

第四區公所 (月末開設)

三〇〇〇・〇〇

第五區公所

五〇〇〇・〇〇

圖書 七四〇・〇〇

計

三〇、五二四・〇〇

(3) 月末殘金

五六一・〇〇

右總計ノ約六五〇八八円計ナレ共委員等ノ薪費時ナル情勢ヨリシ、止ムヲ得サル事ナリト思フサルカ財政ノ状況ハ文字通譯難タルモノニシテ二月分ノ報告ハ未ダナキニ據シテ一月ノ實況ト是不備ルヘシ

右ノ如キ状態ナルニ依リ特設機關及自治委員等ニ於テ各財源ノ確保ニ努メシツアルモ經費支拂ニ乏シク而モ貧民ノ三十万人ノ口糧ニ對シテ實狀ニ照シ早急ニ財政ノ確立ヲ期スルハ蓋シ至難ノコトニ

獨スルヲ以テ勞難民ノ糧食統制ノ必要モナリ當分ノ間米穀直營ニ依ル利益ヲ以テ委員等ノ主要收入タラシメヘク指導シツアリ

(一) 難民區ノ解散

(二) 國際委員會ニ對スル措置

國際委員會ハ十一月下旬夜當局ノ明確ナル否決ニモ不扣南京難民區ヲ設立シテ難民ヲ全部該區域ニ收容シ皇軍入城後ト雖施米具ノ他難民ニ對スル各般ノ救済ヲ續行スル一方難民區ニ於ケル皇軍ノ行動ヲ監視シテ活潑且ツ善意アル對外宣傳ヲ試ミタリ

(三) 石退却ノ際住民給養ノ爲額二十萬元、米一萬ト交付シタリ

國際委員會ノ石ノ如キ行動ヲ若持續セシムルノ百端アツテ一利ナキハ白明ノ理ナルヲ以テ之ヲ活動ヲ抑制スヘク一月八日南京自治委員等ヲシテ難民ニ對スル諸般ノ救済事項ハ凡テ之ヲ自治委員ニ於テ施行スル旨ノ國際委員會宛通告ヲ發出セシメ爾來今日迄報告アル毎ニ具ノ活動ヲ抑制シテ結果國際委員會ノ活動ハ現在最早實

實のニハ殆ト停止ノ狀態ニアリ

(四) 難民ノ居住地ノ狀況

國際委員會ノ難民ニ對スル抑制ト共ニ所謂難民區ヲ解散セシムヘキ方針ヲ確立シ難民區内住民ニ對シ早急居住地ニ復歸、復業スヘキヲ強シタルモ治安ニ對スル不安感極メテ強シキモノアルニ於テ居住困難セル事例甚々多クシテ難民區トシテ持テサリキモ警備司令及特設機關ノ指導ト自治委員會警察廳及各區長以下戸長、家長、救済委員等ノ活動ナル活動トニ依リ遂次復舊者ノ數ヲ増シ二月末日現在ニ於ケル復舊者數ハ

第一區 六九〇六七

第二區 六五二二二

第三區 一八二〇六

第四區 一二〇〇七

第五區 五〇〇〇

(註) 第五區ハ未ダ復舊報告未キニ據シテ現在該區ノ復舊者數

計 一七二、五〇二

ニシテ各區共主要街路ニ小賣店櫛比シ販賣ヲ極メツツアリ
復歸シタルモ職ナキ者或ハ老幼婦女ニシテ獨立ニテ生活ノ能力ナキ者
等ニ對シテハ區公所ニ於テ適當ニ收容シ給付ヲ試ミツツ極力援手
ニ努力中ナリ

又元來南京ニ居住ヲ有セタル者ニシテ四等ノ高南京ニ退避シタル者及
皇軍入隊部隊ニ伴ハレテ南京ニ入りタル者相繼々アリタルヲ以テ二
月九日以後十日間ニ亘リ近接周近地城ニ復歸シ度キ難民ヲ全部復歸セ
シメ又一月二十七日、二十八日兩日ニ亘リ上流ニ歸還シ度キ難民約一
千名ヲ送還シタリ

尙鳳山、蘇州、無錫、丹陽、蘇江方面ニ歸還ヲ希望スル者約一千餘名
アルヲ以テ之ニ對シテモ適當ノ措置ニ從事セシムル豫定ナリ

三、治安

(一) 敗殘兵及抗日分子ノ摘出

治安獨立ノ先決問題ハ城内外ニ於ケル敗殘兵及抗日分子ノ搜查摘出
ニシテ昨年十二月二十二日以降本年一月五日ニ至ルノ間ニ於テ中興
兵團ノ施行セル査問ニ協力シ約四千名ノ敗殘兵並抗日分子ヲ摘出し
一月六日より二月二十五日ニ至ル間更ニ特設機關ニ於テ天谷警備支
隊ノ協力ヲ得テ城内外ニ對シテ査問ヲ續行シ約五百名ヲ摘出セリ

此ノ結果良民トシテ(若婦及十二歳以下ノ小兒ヲ除ク)安居之聲ヲ
交付セル者左ノ如シ(概數)

中興兵團 一五〇〇〇〇
特務機關 一〇〇〇〇〇
計 二五〇〇〇〇

難民ノ城門ノ通行ニ關シテハ嚴重ニ之ヲ制限シアリシモ情勢ノ推移
ニ鑑ミ漸次之ヲ緩和シ二月二十五日以降無制限通行ヲ許可シタリ

(二) 一般治安狀況

1028

敗殘兵及抗日分子ノ摘出工作ト併行シテ自治委員會警察總局ヲ管轄シ
テ惡質犯罪者ノ檢査ニ當リ難民區ニ於ケル生活環境ノ不自然ナルニ
來タシテ警察シタル不正支那人ヲ檢査懲戒シ(約五百名)一般治安
ノ確立ニ努メタル結果治安狀況ハ概シテ佳良ナリ

隱匿兵器ノ搜查ハ警察總局及各區保甲組ニ於テ極力之ニ努メツツアリ
テ搜查、發見シタル兵器ハ莫大ノ數量(トツツ五十五區分)ニ達シ
然レトモ今尙城内外ニ於ケル隱匿兵器ハ尙多數アルモノト判斷シテ
機關ヲ管轄スルト共ニ警察及宣傳部ヲ活用シ之ヲ押收ニ努メアリ
皇軍入城後ト雖モ火災絶ヘス水道、不通、消防自動車ノ發給ノ爲
初ハ消火ノ術ナク放置ノ狀態ナリシモ水道、恢復及救急消防自動車
二臺ノ返還ヲ受ケタルヲ以テ一月中旬消防隊ヲ編成シテ之ヲ管轄
ニ編入シタリ、該消防隊ノ出動回數ハ一月三十一回、二月四回八回
ニシテ失火數ハ之ニ數倍セルモ兎モ角之ニ依リ火災ノ災害ヲ甚シク
防止スルヲ得タリ

南京市街清掃

(一) 清掃隊ノ編成

市街、家屋ノ破損甚大ニシテ著シク市容ノ美觀ヲ損傷スルノミナラ
ス衛生ノ見地ヨリスルモ之ヲ放置シ能ハサルヲ以テ一月中旬約百名
ヨリナル市街清掃隊ヲ編成シ之ヲ警察總局ニ屬セシメ連日主要道路及
其ノ兩側家屋ノ清掃ヲ行ハシメツツアルモ地域廣範ニシテ人員不足
ノ感ナントセサルヲ以テ自治委員會ニ合シ大々的市街清掃ヲ計畫シ
タリ

(二) 紅十字會ノ屍體運葬

紅十字會屍體運葬隊(隊員約六百名)ハ一月上旬來時警察總局ノ指導
下ニ城内外ニ涉リ連日屍體ノ運葬ニ當リ二月末現在ニ於テ約五千ニ
達スル屍體ヲ運葬シ著大ノ成績ヲ挙げツツアリ

三、救濟

(一) 物資ニ對ル救濟

南京ハ純然タル消費都市ニシテ從前物資貯藏倉庫モテ尠ナリシニ
加ヘ支那軍ノ兵站用物資ハ全部皇軍之ヲ管理スルコトナリタルヲ

果本年初頭ニ於テ早クモ難民ノ食糧問題頗ル切迫シタルヲ以テ之ヲ
 糧省ニ難民救恤ノ實權ヲ國際委員會ヨリ奪取スヘク望ニ申請シテ其
 ノ管理物資ノ無料配給ヲ仰キ一月十五日以來米穀一二〇〇俵、麵粉一〇
 〇〇〇俵、鹽三六七〇俵ノ配給ヲ受ケ右ノ中米三〇〇〇俵、麵粉三
 〇〇〇俵、鹽五〇〇俵ヲ救濟物資トシテ自治委員會救濟課及各區公
 所ヲ指導シテ貧窮難民ニ之ヲ分配セリ

當地ニ於ケル要救濟人員ハ大約六萬ニシテ當地ノ性質上區チニ授産
 ノ途ナキヲ以テ尙當分ノ救濟ヲ實施セサルヘカラス一方自治委員
 會ノ財政ハ困窮セルヲ以テ速ニ之カ對策ヲ講スルハ喫緊事タルヲ以
 テ特務機關ニ於テモ其ノ方途ヲ研究シアルモ根本都ニ於テモ之カ對
 策ヲ講セラレ度

(二) 施設

第一區公所開設ト共ニ之ニ支那ノ醫師二名同看護婦二名同藥局二名
 計六名ヲ置キ施設ニ當ラシメツツアリタルモ難民多岐ニシテ充分ノ
 效果ヲ得ヤリシ爲難民ノ施療ハ主トシテ國際委員會ノ管理下ニ

在ル病院之ニ當リタルモ斯ノ如キハ固ヨリ之ヲ修繕シ得ヘキ所
 ニ非ス殊ニ春曉ト共ニ惡疫流行ノ懸念深マリ來レルヲ以テ蘇田郡廳
 及天谷支隊軍醫部及兵站病院ノ應援ヲ得大々的ニ防疫及施療ヲ施行
 スヘク計畫シ二月二十七、八兩日ニ於テ各區ニ施療所ヲ設置シ三月
 上旬ヨリ實施セルコトトセリ

蘇田ハ甚シク缺乏シアルモ應急ノ措置トシテ當分ノ使用量ハ重ヨリ
 之ヲ借用スルニトセリ

其ノ他本夏ハ相當傳染病ノ發生ヲ顧慮シ「コレラ」、腸チフス等ノ
 預防接種ニ關シテモ目下計畫中ナリ

六 難民授産

難民區解散ノ方針ノ下ニ原住所ニ遷移セシメタル難民ノ應置殊ニ其ノ
 授産ハ諸般ノ情勢上極メテ困難ナル事情ニ在リ資金ノ枯渴ト物資ノ不
 足トハ城內難民ノ商業ノ復活ヲ阻害シ甚具及家畜ノ喪失ハ城外難民ノ
 謀生ニ多大ノ不安ヲ與ヘ居ルヲ以テ右條ノ惡條件ヲ克服スヘク各級ノ
 對策ヲ考究申ナルニ應急ノ處置トシテ

(一) 公益事業従業員ノ募集

電燈、水道等公益事業力軍ノ手ニアリ復興ノ端ニ就クヤ從前之等
 従業員ノ經驗アリシ難民ヲ募集シテ之ニ服役セシメタリ

二月末日現在ノ公益事業従業員難民數左ノ如シ

電氣	一六〇名
水道	六〇名
計	二二〇名

(二) 軍使用苦力

軍ニ於テ使用、ヘキ苦力ハ一月上旬以來凡テ時勢機關之ヲ幹旋スル
 コトトナリ常役、日傭ヲ合シ二月末日現在約千餘名ニ於テ幹旋就業
 シメタル軍使用苦力ノ雇人員ハ約一萬人ニ達ス

尙二月上旬自治委員會本部及各區ニ苦力收容所ヲ開設シ勞働能力
 ルモ現在無職ナル難民ヲ收容シ(二月末日現在約五百名)軍ノ需要
 應シツツアリ

(三) 各區內ニ小賣商場ヲ開設

少ナリトモ營業資金ヲ所持シ居リタル者ハ其住所復舊ト共ニ該所
 ニ簡單ナル小賣商店ヲ開設シ食料品、雜貨ヲ主トシテ販賣シタルカ
 此ノ種小賣商店ヲ交通制限緩和ニ依ル物資供給ノ新増ニ伴ヒ逐日増
 加シ二月末日現在ニ於テハ各區內主要街路ハ何レモ小賣商場トナリ
 相當殷盛ヲ示シツツアリ

七 物資供給

物資ノ供給ヲ圓滑、潤澤ナラシムヘク入城以來左ノ如キ措置ヲ講シタ

(一) 軍票交換所ノ設置

軍使用苦力ニ對スル賃銀ハ凡テ軍票ヲ以テセラレタル關係上軍ニ於
 テ之ヲ交換スルノ必要ヲ認メ一月五日先ツ難民區ニ軍司令部直營ノ
 軍票交換所ヲ設ケ米穀、麵粉ヲ米一袋(十圓)麵粉一袋(二圓五十
 錢)ニテ交換シタルカ難民區ノ解散方針ニ依リ一月十五日之ヲ閉鎖
 シテ各區ニ(下關第五區ヲ除ク)一面所ノ交換所ヲ設ケタリ

(二) 自治委員會ノ食糧直賣

派遣軍司令部ヨリ押収米穀及麵粉運鹽ノ無料配付ヲ受ケタル自治委員會ハ前記ノ如ク其ノ一ヲ救済ニ充テタルモ自治委員會ノ運用上財政ヲ充實スルノ要アルト國民ノ間ニ徒食ノ弊發生スルヲ防止スル爲メ而ハ之ヲ一般國民ニ向ツテ販賣スルコトトシ各區ニ直賣所ヲ設ケテ一月十五日以降米穀約九千袋、麵粉約八千袋ヲ米一袋十一圓、麵粉一袋三圓五十錢ニテ販賣シタリ

三 物資蒐集ノ爲メ調査隊ヲ各地ニ派遣

物資蒐集ノ爲メ一月下旬來揚州、鎮江、浦鎮、六合（治安惡シキ爲調査未了）溧水、蕪湖方面ニ自治委員會工商課員ヲ主班トスル調査隊ヲ派遣シ前記各地ノ物資調査ニ當ラシメタルカ此ノ結果相當多量ノ物資蒐集可能ナリト、結語ニ調査シ二月十五日自治委員會ノ幹旋ノ許ニ中央卸賣市場（日用品銷售統制處）ヲ開設シタリ

四 中央卸賣市場ノ開設

斯テ中央卸賣市場ハ二月十五日先ツ食糧品雜貨ヲ主タル營業品トシ

ヲ開館シタルカ各地ヨリノ物資ノ移集漸増シ殊ニ下旬來宜臨本都指定ノ在上海有力日本商店トノ取引ノ途モ隔ケタルコトハ本市場ノ前途ニ多大ノ光明ヲ與ヘタリ

各區ニ於ケル小賣商場ノ上ニ位置スヘキ處ノ卸賣市場タルノ實質ニ於テ未タ相當ノ不足ナシトセサルモ要ハ今後ノ運用ノ如何ニ在リ中央卸賣市場ノ組織要項左ノ如シ

日用品銷售統制處要項

一、株式組織、資本金十萬元（一株十圓、記名式）

二、利益金處分

配當四割、積立金一割、自治委員會經費ノ補助二割、發起人特別利益一割、同人獎勵金一割、統制實施ニ依ル失業救済一割

一、市内日需品ハ總テ統制處ヨリ統制製出シ行ヒ賣上額ハ本市場人貸付基金ニ充ツ

一、惡質商人ノ價格操縦ヲ防キ民食ノ安定ヲ期スルヲ目的トシ相當資金ヲ調達シテ一切ノ日常需品ヲ平價ニテ販賣ス

各商品ノ專問者並自治會工商課員ニテ評價委員會ヲ組織シ價格ヲ公定ス

一、本處ニ總務、財務、貨倉ノ三部ヲ置ク

一、會計擔任者ヲ置キ收支報告ヲ毎日提出ス

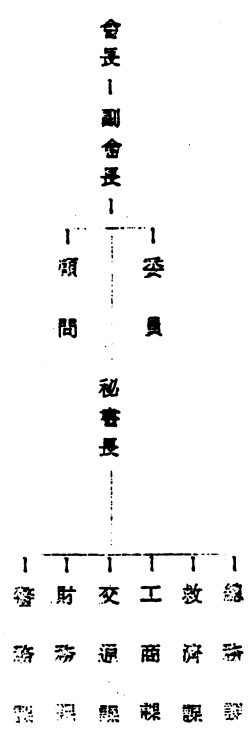
一、倉庫管理者ヲ置キ出入貨物表ヲ毎日提出ス

四 對支那人販賣商店ノ開設

國民ノ日貨需要ニ應スル爲酒保以外ノ日本商店十三店ヲ指定シ二月十六日ヨリ支那人ニ對シ軍票ヲ以テ日用品ヲ販賣セシムルコトトセリ

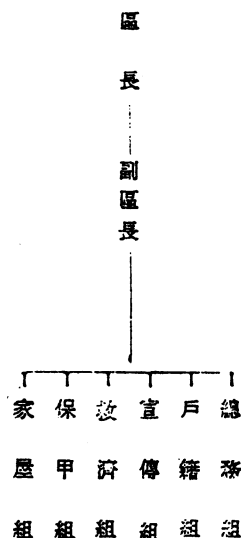
附 表 一

自治委員會組織表



附 表 二

區公所組織表



附 表 三

警察廳組織表



延 設 概 況

目 次

- 一、日本人ノ進出狀況
- 二、公共事業ノ復舊
- 三、電氣及水道
- 四、郵便、電信、電話及バス

一、日本人進出ノ統制
 占領地ノ經營ハ資本的、技術的ニ日本人ノ進出ヲ第一ノ要件トスルカ
 故ニ占領以來特務機關ハ派遣軍ト協力一定區劃ヲ定メ局部的、集團的
 ニ復興計畫ヲ定メ一方ニ於テハ日本人相互ノ摩擦ヲ避ケ之ヲ監督統制
 ニ遺憾ナキヲ期シタリ
 其ノ地域ハ北ハ國府路ヨリ南ハ白下路ニ至リ西ハ中正路ヨリ東鐵道線
 路ニ達スル一帶ニシテ中ニ太平路及東中山路ノ繁華街ヲ含ム
 而シテ南京上流ノ避難民ニシテ將來當地ニ在留ノ希望ヲ有シ復興セン
 トスル者ニ對シテハ之ニ優先權ヲ與フルコト應急的措置トシテ最必要
 トセラレタリ
 斯クノ如クシテ日本人ノ復歸並進出ノ勢漸ク顯著トナルニ及ヒ特務機
 關ハ「臨時南京市居留邦人取締規則公示ノ件」(末尾添附)ヲ公布シ
 在留、營業許可及支那人家庭使用許可ノ事務ヲ執筆セリ因ニ家庭使用
 ニ付テハ保存、立退或使用料ノ徵收ニ關シ軍ノ命令ニ從フヘキ旨ノ註
 書ヲ提出セシメタリ

茲ニ現在日本人狀況一覽表ニ依リテ一設情勢ヲ示スコト左ノ如シ
 一、在留邦人數（軍人、軍屬及領事館員ヲ除ク）

本邦人		朝鮮人		臺灣人		計
男	女	男	女	男	女	
二五〇、一一三	一一六、五八	二	四三九			

一、家庭貸下敷其ノ他

家庭貸下敷 一四八
 營業許可件數 一四〇
 同右開業數 八八

營業種別	許可數	同上 開業數	營業種別	許可數	同上 開業數
食料雜貨	四二	三一	影刻業	一	一
貿易商	三	一	文房具	一	一

營業種別	許可數	同上 開業數	營業種別	許可數	同上 開業數
煙草卸小賣	一	一	醫科醫師	三	一
宿館	二	一	齒科醫師	一	一
時計修理及販賣	五	三	飲食店	二	一八
修理業	三	三	料理店	二	二
什貨店	二	一	貨席店	五	五
運送業	四	一	菓子製造販賣店	一	一
船舶運送	一	一	菓子製造販賣店	五	二
自動車修理	二	一	菓子製造販賣店	二	一
印刷業	一	一	菓子製造販賣店	二	一
陶磁器商	一	一	菓子製造販賣店	二	一
樂器賣場	四	一	菓子製造販賣店	二	一
洗禮屋	二	一	菓子製造販賣店	二	一
土木建築	三	一	菓子製造販賣店	二	一
皮革具商	一	一	菓子製造販賣店	二	一
靴製造修理	三	二	菓子製造販賣店	二	一
計	一四〇、八八	一四〇、八八	菓子製造販賣店	二	一

No. 39

南京ニ於ケル經濟ノ混亂ハ交通機關ノ不備ニ伴ヒ物資ノ缺乏ヲ告ケタル爲當初ハ担保ハ固ヨリ一般商人ニ於テモ支那人ニ對スル商品ノ販賣ヲ禁シ特ニ公共事業ノ職員又ハ日本軍ニ於テ雇傭シ又ハ使役スル者ニ限リ購入許可證ヲ下附シ軍票ヲ以テ日本人商店ニ於ケル商品ノ購入ヲ認メタリ
 斯クノ如キハ眞ニ事情已ムヲ得ナリシ所ナルカ一方ニ於テハ軍票ヲ給與シ他方ニ於テハ購入許可證ヲ下附スルハ其ノ何レカ通貨ナリヤヲ知ラス軍票ノ備ニ關シテモ障礙アリ其ノ間支那人ノ缺乏益甚シク自治委員會ノ救済モ到底及ハサル勢アリ斯ク宜極ノ必要強請セラルルニ及ビ二月十五日「支那人ニ對スル物品販賣商店開設ノ件」(末尾添附)ヲ定メ一定商店(十三軒)ヲシテ軍票ヲ以テ支那人ニ對スル商品ノ販賣ヲ定メ別ニ物價統制委員會ヲ組織スルコトナレリ
 尙自治委員會統制處ノ販賣物品ニ關シテモ其ノ都度日本商人ヲ斡旋紹介スルト共ニ監督ヲ加ヘ來レリ
 這般ノ事情ハ一決不可解ノ如キ感ヲ與フルモ内部ニ於テハ當事者ノ常

ニ對シテ支那人ヲ對銀トスヘキハ論ナキトコロニシテ最參考ノ價值アリト思惟スルニ因ル
 ニ對シテ支那人ヲ對銀トスヘキハ論ナキトコロニシテ最參考ノ價值アリト思惟スルニ因ル
 以上ノ經過ヲ辿リテ南京市ニ於ケル經濟取引ハ次第ニ平常ニ復シ外面城門通行ノ自由ト共ニ日支人間ノ經濟的結合ハ漸ク緊密ヲ加フルモト信セラル。茲ニ日支間ノ取引狀況ニ關シ稍解説セルハ將來ノ取引主トシテ支那人ヲ對銀トスヘキハ論ナキトコロニシテ最參考ノ價值アリト思惟スルニ因ル

臨時南京市居留邦人取締規則公示ノ件
首題規則左記ノ通制定本日之ヲ公示ス（昭和十三年一月五日）

臨時南京市居留邦人取締規則

第一條 南京市ニ居住スル者ハ軍ノ占領地域タルニ鑑ミ軍ノ定メタル規定ヲ遵守スヘシ

第二條 南京市ニ住所ヲ定メムトスル者ハ到着ノ日より五日以内ニ本署前住所、住所、職業、氏名及年齢ヲ具記シ南京特務機關長ニ届出ツヘシ
但シ家族、同居人、使用人ニアリテハ世帯主、通稱主ヨリ届出スルモノトス

第三條 居住ニ際シ他人ノ家屋又ハ建物ヲ使用セムトスル者ハ南京特務機關長ノ許可ヲ受クヘシ

第四條 居住ニ際シ他人ノ家屋又ハ建物ヲ使用セムトスル者ハ南京特務機關長ノ許可ヲ受クヘシ
於テハ之カ立退ヲ命シ又ハ原形ニ復セシムル等ノコトアルヘシ

第五條 營業取締上必要ト認ムル事項又ハ遵守スヘキ事項ハ別ニ指示ス

（第一條及本條ノ規定、指示等ハ南京特務機關ヨリ南京居留民會ニ未成立ノ間ハ指示又ハ布告等適宜ノ方法ニ依ルニ通告ス）

第六條 本則ニ違背シタル者ハ營業ノ禁止又ハ退去ヲ命スル外軍法規ニ依リ處断セラルコトアルヘシ

第七條 本規則ハ公示ノ日より之ヲ實施ス

一、場所
二、物
三、式
四、附屬建物
五、權

一、借用年月日

右今般軍ニ於テ占據ニ係ル家屋御貸下相成候ニ就テハ御指示ニ從ヒ使用期間内必要ナル保存ヲ法ヲ講スルハ勿論立退キヲ命セラレタル場合ハ速ニ立退クヘク又御命令ノ場合ハ相當ノ使用料ヲ納メ舊ニ復スヘキコトヲ誓ヒ右茲ニ借用候也
昭和 年 月 日
右借用人

特務機關長

殿

1046

支那人ニ對スル物品販賣商店開設ノ件
一、主トシテ支那人ヲ對象トスル商店トシテ差當リ左記十三店ヲ指定許可ス

左記

- | | |
|-----------|----------|
| (1) 福田洋行 | (3) 思明堂 |
| (2) 東運公司 | (4) 三星洋行 |
| (3) 丸甲洋行 | (5) 西亞洋行 |
| (4) 衣川洋行 | (6) 本田商店 |
| (5) 日比野洋行 | (7) 中村商店 |
| (6) 漢和洋行 | (8) 大石洋行 |
| (7) 錦川洋行 | |

二、右指定店ハ軍票ニ限リ販賣スルモノトス

三、指定店ノ賣上軍票ハ五圓經部ニ於テ日本銀行券ト兌換ス

四、支那人所要ノ軍票ハ必要ニ應シ軍票交換所ニ於テ兌換スル外南京市自治委員會ニ取極メ兌換交付ス

右兌換ハ必要ニ應ジ調整スルコトアリ

軍需經理部、儲備司令部、憲兵隊及特務機關ヨリ各一名ノ委員ヲ出シテ
物價統制委員會ヲ組織シ指定店ノ商品價格ヲ統制ス
(註) 本件ハ二月十四日軍參謀長並軍需經理部長ノ承認ヲ經タルモノナ
リ

ニ公共事業ノ復舊

イ、電氣及水道

南京市ニ於ケル軍需並市民生活ノ安全ニ寄スル爲電氣及水道等ノ公
共事業ハ至急復舊ノ要アルモノト認メ入城直後ヨリ之カ運行開始ヲ
準備シ軍直營ノ形式ヲ以テ運轉シ今日ニ至レリ
概要左ノ如シ

(一)施設概要

南京ニ於ケル電氣事業ハ國民政府建設委員會ノ管轄ニ係ル首都電
廠ノ經營セルモノニシテ主タル發電所ハ下關ニ在リ補助發電所一
箇上坊門ニ在リ能力前者三萬軒、後者二千軒ナリ而シテ下關發

電所ハ南京、鎮江間ヲ大工業地帯トスル國民政府ノ計畫ニ基キ尙
増設計畫ヲ有スルモノノ如シ後者ハヨ、シテ街燈用ニ利用セラレ
タルモノノ由ナリ

水道事業ハ南京市營ニシテ城西揚子江ノ分流タル 水ヲ取入口ト
シ一部ハ直接城内ニ配水一部ハ城内清涼山ニ押上ケ之ヨリ自然流
下ヲ以テ配水セラル流過裝置建設中ニシテ未完成ナリ而シテ水道
用動力ハ平時發電所ヨリ電氣ノ供給ヲ受ケ運轉セルモ萬一故障ノ
場合豫備トシテゼイゼルエンジン五百馬力一臺ヲ有ス

(二)被害状況

下關發電所ハ軍事施設トシテ利用セラレタル爲昨年九月二十五日
爆彈一箇ヲ投下セラレタルモ幸ニ機械ノ主要部一がイラレシ
シニハ損傷ナカリシ爲内線ヲ切替ヘ十二月十二日迄運轉ヲ繼續セ
リ上坊門發電所ハ損傷無シ外線ノ被害ハ火災ニ依ルモノニ六部ト
シ城内ハ一般ニ損傷比較的輕微ナリ
水道取入口ニ故障ナシ唯清涼山ニ池ニ至ル鐵管爆破セシ其ノ

他送電線被害甚カラス漏水甚タ多シ同シク十二月十二日迄運轉給
水セラル

四人員整備

總計的ニ電氣及水道設備ハ損害輕微ナリシヲ以テ之カ復舊ニ付テ
ハ先ツ技術及勞働力ノ整備ヲ必要ト認メ最初第十六師團ハ其ノ兵
力中ヨリ技術關係者ヲ集メ一方特務機關ハ從前當該事業ノ從業
タリシモノヲ求メ十二月二十二、三日頃ヨリ復舊作業ニ從事スル
コトヲ得タリ

支那人職工ニ關シテハ當初戰爭ノ恐怖甚シキ爲先ツ生命ノ保證、
住居ノ安全及糧食ノ供給ヲ條件トシ軍章ノ作成、保護、地區ノ
定、米其ノ他副食物ノ配給等萬全ヲ期シタリ而シテ給與ニ關シテ
ハ一般ノ勞働條件ニ鑑ミ一月中旬第十六師團ヨリ派遣軍醫等
引繼ノ後一定ノ賃銀ヲ軍票ヲ以テ支拂ヒタリ現在支那人從業員
氣事業百六十餘名、水道事業六十餘名ナリ

四復舊作業

電氣及水道ノ兩事業ハ相關關係ニ在ルカ故ニ初メ先ツ電氣ノ復
ニ依リ自ラ水道ノ運行ヲ開始スルコトヲ得ルモノトシ作業ヲ始

No. 11

タルモ南京市ノ飲用水缺乏漸ク甚シキ爲水道ハスベアナル・デイ
セルニンゲンヲ運轉スルコトトシ作業ニ著手セリ。一方電氣ハ當
初下關發電所ヨリ著手セルモ機械設備大ニシテ補助發電所ナクシ
テハ通風並給水ヲ得ス壓力上ラスボイラーニ危險ヲ感シタル爲直
ニ中華門外六里ノ地點ニ在ル上城門發電所ヲ試運轉シ途中城外外
線ニ多大ノ損傷アリシモ晝夜兼行電氣水道兩々本年一月一日ヨリ
一部車線ノ利用ニ供シ次テ下關發電所ノ復舊ト共ニ水道用電力モ
之ヨリ供給ヲ受ケ漸次舊發電所モ擴大シテ今日ニ及ヘルモノナリ。
尙上坊門發電所ハ現在運轉停止、清涼山ニ至ル鐵管ハ殆ト修理ヲ
完了セリ

電氣及水道ノ兩事業ハ今日ニ至ル迄軍直營ノ形式ヲ以テ經營セラ
レタルモ移動性アル軍隊ノ當然ノ歸結トシテ其ノ經營主ニハ第十
六師團ヨリ派遣軍經理部ヘ更ニ第三師團經理部ヘト順次變更セラ
レタリ

當初ハ技術並勞働力不足ノ爲専ラ軍隊ノ需要ニ應スル第一義トシ

No. 5

所轄部隊ノ許可ヲ得テ供給セリ。然レトモ電氣及水道ノ需要カ日
常生活ニ不可缺ノ要件タル爲且且工作促進上最好個ノ動力タル
爲其ノ利用ハ現在無償ニテ廣ク一般ニ解放セラルルニ至レリ

所要ノ技術並勞働力ノ不足ニ關シテハ幾ニ軍特務部ヨリ吳中公司
宛發セラレタル指令ニ基キ吳中公司囑託トシテ電力聯盟ヨリ電氣
從業員八名、東京市ヨリ水道從業員二八名來京シ現在ハ専ラ軍應
援ノ形式ニ於テ各專門ヲ擔當セリ

吳中公司カ不取收單據營ノ兩事業ヲ引繼カンカ爲ニハ諸多ノ準備
ヲ要スル所ニシテ先ツ人員ニ關シテハ上述ノ外尙發電所關係ハ火
力並一九名及内外線關係一五名來京ノ豫定ニシテ前者ハ本月九日
到着ニ決定セリ之ト共ニ從業員ノ電氣從業員ハ内外線ニ配屬シ更ニ
之ヲ指員セントスルモノナリ。所要ノ輸送能力ニ付テハ現在トシ
ツシニ運、自轉車二〇臺、馬ノ他兼用者一臺ヲ有セルモ更ニトラ
ツシニ運送セシムルコトナレリ。給食ニ關シテハ第一ニ宿
舎ハ不取收單據道トシ糧食亦係三師團ト協議ノ結果交通站一設經

No. 11

No. 52

済ノ復舊ニ至ル迄官分軍ニ於テ考慮スルコトニ諒解アリタリ。賃
銀ニ付テモ不取收從來ノ例ニヨル

現在吳中公司ハ中山東路江蘇銀行ヲ專斷所トシテ諸般ノ準備ヲ進
メツツアルモ將來軍ノ經營ヲ引繼キ下關專斷所ヲ城內ニ移スニ望
リ社給公債ノ爲更ニ擴張ヲ企圖シアリ

大略上述ノ準備ヲ以テ吳中公司ハ三月十五日ヲ期シ第三師團ヨリ
引繼ヲ受ケルコトニ決定セリ

之ヲ要スルニ今日最必要ナルハ特務部指令ノ趣旨ニ則リ吳中公司
ヲシテ新國貨會社ノ設立法人タルノ任務ト意義ヲ理解セシメ即刻
占領地權益經營ヲ行ハシムルニ在リ

郵便、電信、電話及バス

(一) 郵便

郵政ハ其ノ性質上國家的企業ニ屬スル。以テ之カ經營ニ付テモ新
政體ノ成立ヲ待望スルコト最多シ。然レトモ占領地行政ノ平常化
ニ伴ヒ之カ復舊ノ必要益漸感セラルルニ及ヒ通信省ノ調査並ニ条

ニ基キ將來成立スヘキ新政權ノ下ニ着々準備ヲ進メツツアリ
南京市政府ニ於テハ適當リ左ノ管理局及支局ヲ豫定セラル

(1) 郵政管理局 (南祖廟巷、元交通總長官邸使用)
(2) 中華支局 (原局舎ヲ其ノ處使用)

(3) 昇州路支局 ()

(4) 三牌路支局 ()

(5) 太平路支局 (萬全齋飯館子ナル建物ヲ使用)

(6) 珠江路支局 (上海銀行支店ヲ使用)

右家屋ニ對シテハ「南京市郵局房屋」ナル制札ヲ提出シ其ノ他從
業員ノ宿舍ニ充ツヘキ家屋ニ對シテモ立入禁止ノ票札ヲ貼附セリ
水道電氣ノ引込ニ關シテモ手配中ニシテ上海ヨリ到着スヘキ人員
整備ニ伴ヒ三月上旬再開ノ見込ナリ

(二) 電信、電話

南京占領以降緊急ノ需要ニ對シテハ専ラ通信隊ノ活動ニ俟テ今日
ニ至ルモ事業ノ技術性ニ鑑ミ至急專門家ノ派遣方上海宛打電シ此

日 到 著 ノ 決 定 ナ リ 。 本 件 ニ 關 シ テ ハ 官 營 或 ハ 民 營 ノ 根 本 方 針
 シ 特 務 部 ヨ リ 確 報 ナ キ 爲 打 合 手 配 中 ナ リ
 向 從 來 平 和 擾 亂 ノ 宣 傳 ニ 於 テ 有 名 ナ ル 政 送 局 ハ 當 然 一 括 經 理
 當 ト 認 メ ラ ル

三 六

南 京 市 ハ 近 代 的 道 路 設 備 ヲ 有 ス ル ヲ 以 テ バ 本 事 業 ノ 經 營 ニ 適 宜 ナ
 リ 、 且 又 本 市 ハ 市 街 電 車 ナ ク 從 來 下 關 ヨ リ 中 華 門 ニ 至 ル 輕 便 鐵 道
 以 外 ハ 市 街 ノ 近 代 的 交 通 機 關 ハ 所 謂 江 南 公 共 汽 車 ノ ミ ニ 限 リ 此 ニ
 盡 ミ 茲 ニ 應 急 ニ 興 中 公 司 ニ 對 シ テ カ 計 畫 並 實 行 ヲ 命 シ ア リ タ ル 所 其
 ノ 出 願 ニ 基 キ 特 務 部 ヨ リ 興 中 宛 本 件 ニ 關 ス ル 指 令 ア リ
 爾 來 之 カ 操 業 開 始 ニ 關 シ 特 望 久 シ カ リ シ カ 內 地 ノ 生 産 力 十 分 ナ ラ
 ス 延 ヲ ト シ テ 今 日 ニ 至 レ リ 。 其 ノ 間 分 ソ リ ン ノ 補 給 ニ 關 シ テ モ 困
 難 ヲ 感 シ 軍 特 務 部 宛 之 カ 便 宜 供 與 方 依 賴 セ リ 。 斯 ヲ 以 テ 今 日
 ク 三 月 九 日 不 取 收 入 ス ニ 基 テ 上 海 ヨ リ 廻 送 ノ 旨 ノ 電 報 ニ 接 セ リ 。
 本 事 業 ニ 要 ス ル 車 庫 及 職 員 宿 舍 ハ 中 正 路 元 江 南 汽 車 ノ 施 設 ヲ 準 據

七

之 ヨ リ 先 バ 本 事 業 多 キ ニ 鑑 ミ 從 前 江 南 汽 車 所 有 ノ 車 體 ニ シ テ 且
 ノ 使 用 ニ 關 ス ル モ ノ ヲ 以 テ バ 本 事 業 ノ 運 行 ヲ 計 畫 セ ル モ 部 隊 ノ 容 ル
 ト コ ロ ト ナ ラ ス 最 近 部 隊 ノ 移 動 ニ 伴 ヒ 漸 ク 廢 棄 ノ 車 體 多 キ ヲ 見 ル
 ニ 至 リ タ ル 爲 修 繕 可 能 ノ モ ノ ハ 至 急 修 理 セ シ メ 車 體 ノ 不 足 ヲ 補 フ
 ヲ 適 當 ト シ 手 配 中 ナ リ

南 京 市 第 三 回 報 告 (三 月 甲 狀 況)
宣 傳 概 況

- 一、南京市自治委員會
- 二、自治委員會ノ總舍移轉
- 三、自治委員會ノ增設
- 四、自治委員會ノ財政
- 五、現在ノ財源
- 六、總商會ノ設立
- 七、難民區ノ解散
- 八、難民ノ居住地區之狀況
- 九、上海方面之難民
- 十、治安關係
- 十一、民衆ヘノ反后屋下附
- 十二、救護兵反抗日分子ノ捕出
- 十三、一般治安狀況

- 十四、陸軍兵器
- 十五、自治委員會・消防隊ノ編成
- 十六、市街清潔
- 十七、清掃隊編成
- 十八、廢棄蒐集
- 十九、紅十字會ノ屍體收容
- 二十、救濟

- 二十一、物資ニ依ル救濟
- 二十二、南京ニ於ケル救濟人員
- 二十三、施 療
- 二十四、難民救濟
- 二十五、公益事業従業員ノ復職
- 二十六、軍使用吉力
- 二十七、各區域内ノ雜店小賣市場開設
- 二十八、小學校開設準備
- 二十九、救濟委員會財政ノ不安

一、南京市自治委員會

(一)自治委員會ノ聯合移轉

昭和十三年一月一日成立ノ同委員會ハ舊官部警察内ニ現中ノ所多
大ノ不便ト感シタルヲ以テ是ヲ警察廳ノミノ聯合ニ當テテ自
治委員會ハ三月末日ヲ期シ元司法官訓練所ニ聯合ノ移轉ヲ完了
セリ

(二)候區公所ノ増設

一月末開設ノ城内四城外(下關)計五區ノ候設區公所ノ外民衆ノ要
望ト相俟ツテ治安工作ノ見地ヨリ市内(城外地區)三面所ニ候區公
所増設ノ必要ニ迫ラレ三月下旬其ノ設定ヲ見タリ
「上新河、燕子磯、李陵街ノ三地區トス」

(三)自治委員會ノ財政

二月中ニ於ケル自治委員會ノ收支ヲ對照スルニ
1、收入 五、二五七、四四元

内 譯

大使館下附	一、〇〇〇、〇〇〇
工 商 課	四、八六九、六〇三
經濟局長立替	一、〇〇〇、〇〇〇
救濟課(前月端數)	一、四一
一月分發現金	五、六七一、〇〇〇
2、支出	四、六九三、四〇〇元
内 譯	
總務課	二、〇二〇、〇〇〇
財務課	二、二〇〇、〇〇〇
交通課	六二〇、〇〇〇
警察廳及警察課	八二〇、〇〇〇
第一區公所	二、四〇〇、〇〇〇
第二區公所	四〇〇、〇〇〇
第三區公所	一、五〇〇、〇〇〇
第四區公所	二、七〇〇、〇〇〇

下關區公所

警察廳

經濟局長立替金返還

南京市總商會

計 月末殘金

一、〇〇〇、〇〇〇
七、四〇〇
三、〇〇〇、〇〇〇
三、〇〇〇、〇〇〇
四、六九三、四〇〇
四、三二二、三四四元

(四)現在ノ財源

自治委員會ノ財源物ニハ各個所ニ於テ權力研究シツアルモ經濟
資源ニ乏シク而モ貧窮ノ三十萬人人口ヲ擁シ救濟者七萬ヲ下ラサ
ル實狀ヨリスルモ早急ニ財政ノ確立ヲ期スルハ蓋シ至難ノ事ニ屬ス
ルヲ以テ難民ノ糧食統制ノ一方當分ノ間米穀直營ニ依ル利益ヲ以テ
委員會ノ主要收入タラシメツツアリ然ルニ忽々南京市又ハ附近ノ廠
產物資モ既ニ完了セシ爲尙後地ニ於ケル生産地方ヨリノ物資輸入ニ
請スル手配ニ着手シツツアリ又ニ本地區内ニ貯藏シアリタル穀ハ元
來專賣制度ヲ實施シアリタルモ此ノ處販賣セハ熱氣收収ノ爲使用不

能ニ附リ効キ爲漸定的屬置トシテ自治委員會ノ販賣ニ委ネ同官ニテ
公量凌ヲ設立シ別官計トシテ鹽ノ販賣ニ着手セリ
尙城内ニ散在セル人力車ノ大舊車ヲ開始シ既ニ七百數十臺ヲ城内地
區ノ營業ニ當ラシメ人力車況ノ徵收ヲ開始セル等ノ程度タリ
然シテ一方道路清浄隊ト相俟ツテ權力職權ノ更張ニ當ラシメ既ニ六
百噸内外ヲ果實シツツアリ

國總商會ノ設立

當城ニ於テハ南京市ノ急遽ナル市場恢復ノ爲ニ且南京市自體ノ特
性ニ鑑ミ總商會ノ必要ヲ認メ之ヲ設立ヲ許可セリ新テ去ル二月七日
ヨリ準備員五名ノ手ニ依リ準備工作ハ通メラレ三月七日南京市總商
會籌備會ノ發會式ヲ舉行セリ(會章ハ前ニ報告セリ)

三 難民區ノ解散

一月八日ヨリ國際委員會包含ノ難民區解散ニ着手シ二月下旬迄ニ殆ト
其ノ解散ニ成功シタルモ尙多數ノ難民留置アリタルヲ以テ徹底的ニ其ノ
誘導ニ努メタル結果三月上旬殆ト完了ノ域ニ達セリ尙留置ノ者ハ
1 從來同地區内ニ居住セル現第四區民タル者
2 日本人特別地區内ニ居住ヲ許サル爲其ノ一部留置者及下關地區ノ
全滅的燒跡ニ復歸シ待サル者ノ一部並上海方面ノ沿線地區ニ留置ス
ヘキ者ノ若干ニシテ逐次各區收容所ニ收容シツツアリ從ツテ難民ノ
約九五五ハ第四區區民ト稱サレ得ヘシ通稱難民區ノ名稱モ自然消滅
ノ内ニ第四區ト稱サレツツアリ

三 難民ノ居住地區之狀況

自治委員會並各區公所ノ活動ナル活動ニ依リ逐次復歸者ノ數ヲ増シ就
ニ南京ノ人口三十八萬ヲ下ラサルモノノ如ク然シテ各區公所ニ於ケル
登記人口ノミニテモ二十三萬五千人ヲ突破セリ今各區ニ於ケル復歸者
登記人口ヲ見ルニ次表ノ如シ

區別	二月末登記數	三月末登記數
第一區	六九〇六七	七八六三九
第二區	六五二二二	七七六九四
第三區	一九二〇六	三六〇三六
第四區	一三〇〇七	三三、四七三
下關區	七〇〇〇	一〇、二一四
計	一七、五〇二	二三、五〇五

尙各區指定箇所ノ小賣店市場ハ是等復歸者ノ往來ニ依リ殷盛ヲ觀メ
ツツアリ

四 上海方面歸還難民

第一次送還ノ分約一千名

第二次送還了ノ分約八百五十名(手配完了)

第三次送還手配了ノ分約一千名内外ノ見込

但シ列車復舊業開始ノ上ハ第三次以後ノ著ハ比較的減少ノ見込ミ

五 治安關係

(一) 良民ヘノ安居證下附

第一次 十五萬

第二次 十萬

第三次 三月中旬ヨリ仮名再下附ニ着手(現在約三萬、配給)

前線兵及抗日分子ノ捕出

第一次 四千名

第二次 五百名
第三次 數十名

(二) 一級治安狀況

第一次ヨリ第二次ニ至ル間自治委員會及警察廳ヲ補助シテ不正支那
人ノ檢舉ニ當ラシム約五百件ニ達シ第三次ニ於テ百數十件ニ達シア
ルモ概シテ小難件ニ止マル

城内ニ於ケル難後ノ治安狀況ハ概シテ良好ナルモ城外地區ノ南京市
内上新河並燕山嶺方面ニ於ケル不逞分子ハ稍其ノ數ヲ増シ之等不逞
分子ノ通入者モ少カラサルモノノ如ク並軍隊並警察廳方面トノ連
絡ノ下ニ治安關係一切ノ手配考究中トス

(四) 難民兵隊

既ニ發見シタル兵隊ハトラツツ五十區分ニ達セリ城内外ニモ尚多數
ノ兵隊アルモノト察想シ布告其ノ他ノ方法ニ依リ盡力其ノ捕出ニ努
メツツアリ

(五) 自治委員會消防隊ノ編成

出動回數一月 三十一回、二月 四十八回、三月 二十二回
 天火數ハ二千戸以上ニ達セリ
 消防ポンプ車カニ三臺（内一臺ハ破損）「元ノ南京市消防隊ハ十數臺
 ノ消防自動車ヲ有セリト言フ」

大市街清掃

(一)自治委員會ニテ清掃隊ヲ編成セシム

出動人員 一月 一〇〇名
 二月 一五〇名
 三月 三〇〇名（内下關方面二〇〇名）

(二)屑物ノ蒐集

一方自治委員會財源拮据ノ一助トシテ三月中旬ヨリ城内外ノ屑物蒐集ニ當ラシメ極力其徹底方ニ就テ研究中ニアリ
 尙蒐集基金無キ爲差當リノ應急處置トシテ居民其他ニ各自持參セシメ百斤五十仙ニテ買収セシメ既ニ七百屯内外ヲ集積セリ

曰紅十字會ノ屍體收容

本會ノ屍體收容工作開始以來既ニ三ヶ月賦タトシテ其肅清ニ當リツツアル點眞ニ貧賤ニ便スヘク而モ何等訴ヘル事無ク遂ニ彼等全額ノ準備金ハ既ニ消費シ盡シ最近ニ至リ初メテ行動不能ノ境ニ達シタル旨ノ歎願アリ

尙各城外地區ニ敷在セル屍體モ勢カラス然シテ積極的作業ニ取カカリタル結果著バノ成績ヲ舉ゲ三月十五日現在ヲ以テ既ニ城内ヨリ、七九三、城外ヨリ二九八九八計三、七九一體ヲ城外下關地區並上新河地區方面ノ指定地ニ收容セリ

春暖ニ伴レ更ニ收容場ニ至テ致ラ要スル薪トナリ疫病ノ發生其ノ他ヲ考慮シテ極力其方策ニ對シ研究中ナルカ既ニ紅十字會ノミノ資力ニテハ到底困難ノ業タル事モ明白トナリ何等カノ方法ヲ以テ資金援助ノ方途ヲ講スハキ時機ニ達セリ現在使用中ノトヲツタ日五、六個人夫二、三百名ヲ要シ既ニ對ソリシノ補給人夫賃拮据ト同會ニテハ其方途無キ迄ニ立至ル

然シテ右收容開始以來同會ノ變消セシ金額ハ壹万壹千壹百七拾五元ニ及尙場費ト稱スルモ只アツベラ包ノ檢査地區一帶ニ大部分ハ放置シタル狀況ニシテ、運搬費ミ以前ノ屍體ノ土盛並墓地ノ消毒作業ハ絕對的ノ必要條件ト思考セラル同會作成ノ豫算表ニ依レハ右經費八千九百五拾元ヲ計上シアルモ同會トシテ今後ノ活動ハ全ク不可能

ノ城ニ到達シタル爲右經費援助ニ關シ目下研究中ニアリ

(一)物資ニ依ル救済

一月十五日以降二月末迄ノ分

米 一、二〇〇俵（内三〇〇俵ハ貧民施米）
 麵粉 一〇〇〇〇俵（内三〇〇俵ハ貧民施米）
 鹽 三六七〇（内三〇〇俵ハ貧民施米）
 三月ニ於ケル 六〇〇〇俵（内四〇〇俵ハ貧民施米）
 救済米 六〇〇〇俵（内四〇〇俵ハ貧民施米）
 豆油 三八七壺（浦口倉庫ヨリ一壺二〇〇一三〇〇斤）

(二)東京ニ於ケル要救済人員

一月約十五万、二月約七万五千、三月約六万八千

曰施設

第一區公所 一月以降 支那人醫師二名、支那人看護婦三名
 支那人二名、計六名ヲ以テ施設ニ當ラシム
 第一區公所 三月以降 日本醫師一名增加看護婦シツツアリ

(目下無給)

四月上旬ヨリ右第一區公所應令ヲ元憲兵司令部ニ移轉ノ上現第一區公所(元民衆病院)ヲ南京民衆病院トシテ開放其手配中ニアリ之ニ充當スヘキ經費ハ外務省文化事業費ヨリノ補助ヲ待ツ事トシ既ニ之カ着手ニ任シツツアリ

第二、三、四ノ各區公所ニ於テハ三月上旬ヨリ日本軍醫務所開設後ニ當リツツアリ

一方藥材等充分ナラス故產品使用中ナルモ三十八万ノ人口都市ノ立場ヨリ尙研究ヲ要スヘキ點僅少ナラス

八 難民授産

難民區解散後ニ於ケル原住所歸還者ノ難民ノ處置係ニ其授産ニ對シテハ諸般ノ情勢上極メテ困難ナル事情ニアリ物資ノ不足ト相俟ツテ資金ノ枯渴金融ノ道無キ現在ニ於テ城内商民ノ商業復活ヲ阻止シ器具及家器ノ喪失ハ城外農民ノ奉養ニ多大ノ不安ヲ與ヘ居ルヲ以テ之等ノ惡件ヲ克服スヘク各般ノ對策ヲ考究中ナルカ所急ノ處極トシテ

(一) 公益事業復興費ノ復舊

電燈、水道等ノ公益事業費力軍ノ手ニアリ復興ノ途ニ就クヤ從前之等ニ從事セシ組織アル難民ヲ招集セテ之ニ服役セシメタリ電氣約二〇〇名、水道約一〇〇名、其他自動車運轉手約一〇〇名郵局開設ニ依リ約二〇名 計四三〇名

(二) 軍使用苦力

幹旋セル當役日當苦力延人員約三万人ニ達ス、各區ニ苦力收容所ヲ設置セルンペン群ノ動員ヲ極力整頓シツツアリ

(三) 各區區門ノ露店小賣市場開設

交通制限緩和ニ依リ物資供給ノ漸増ニ伴ヒ逐日増加ノ傾向ヲ示シ食料品雜貨ヲ主トスル露店小賣商ノ進出ニ依リ要救濟者ノ數ヲ逐次減少シツツアリ

九 小學校開設準備

本部ノ指示ヲ俟テ學校スヘク既ニ各區共準備手配中ナルモ現在ノ處其經費抽出ニ一頭座ヲ充シツツアリ

十、法幣暴落ニ依リ自治委員會財政ノ不安
本月下旬來ノ法幣暴落並相場ノ混亂ニ依リ自治委員會ノ財政ニ不安ヲ感スルニ至リタルト共ニ法幣收受拒否ノ爲日本領トノ物資購入取引不能ニ陥リ且ツ當地ニテハ法幣ヲ以テ金圓ニ兌換スル方法無キ爲之カ對等ヲ考究中ナリ

十一、新政府成立式典舉行當日ニ於ケル民衆指導

維新政府成立ニ關シテハ當班ハ各方面トタイアツテ民衆方面ニ關スル一切ノ宣傳、治安、行進指導等ヲ一手ニ引受ケ自治委員會、區公所、警察廳ヲ總動員シ万端漏無キヲ期セタリ斯テ當日ハ三万ノ大衆手ニ手ニ五色ノ小旗ヲ打振リ南京市主幹道路ヲ大行進シ式典場暨國民政府建前ニ於テハ政府要人並民衆ヲシテ深ク感激セシメ總大ナル效果ヲ收タリ
使用セル宣傳ポスター十萬枚、標竹三十五萬

南京建設概況(三月)

目次

- 一、救護濟ノ復興
- 二、公共事業
- 電氣及水道
- 通信及交通
- (一) 郵便
- (二) 電信、電話
- 三、バス

一、救済ノ復興

南京入城以來當地ノ復興ハ完ツ日本人ノ進出ニ優ミ之カ監督ヲ制ス
 組トシ難民ヲ五トセル支那人ノ經濟ノ復興ハ之ヲ顧ミルニ暖ナカリシ
 カ事態ノ平靜ニ伴ヒ先ツ商會ノ設立アリ市面ノ流通ニ依リテ、諸多ノ
 營業開始セラレタル爲本報ニ於テモ三月下旬頃ヨリ商會ト聯絡之カ
 側面ノ援助ヲ行フコトトセリ商會ノ調査ニ依レハ現在營業開始七百四
 七件ニ及ヘリ
 一方ニ於テハ領事館再ニセラレ從來ノ營業許可ハ事ノ管轄上表面上正
 事館ニ移送シ誰家ニ使用許可ハ本報館ニ於テ指導シツツアリ
 一、營業許可可中待ニ任目スヘキハ下圖ニ在ル揚子鹽務公司工場ノ復興
 ニシテ元重慶居留民會長ヲシテ經營セシムルコトニ方針ヲ決シ上特
 務部ニ報告シ其ノ許可ヲ待タリ本件ノ趣旨ハ同工場ヲ大同麵粉公司ト
 合併、日本側ハ重慶居留民ノ再進ヲ圖ルニ在リ因ニ同公司ハ民國二十
 年ノ成立ニ係リ資本金三十萬圓ナリシカ營業不振ノ爲此處一二年間大
 同麵粉公司ニ委任經營セラレタリ江蘇省鐵ニヨレハ同公司工場ハロ

ラ一十二萬每年實需小麥六十萬、毎年產粉能力百二十萬袋、毎年實
 生產麵粉百萬袋ナリ

工場ハ揚子江分流水ニ沿ヒ鐵筋ニシテ主要機械ハアメ
 リカ製ナリ噸支那軍ノ軍需施設ニ利用セラレ敗走ノ棄倉庫並宿舍ヲ燒
 失シ工場ノ一部ニ延焼セリ工場堅固地ノ利佳ニシテ大約二箇月後運轉
 復舊ノ見込ナリ

大ニ氣候漸ク溫暖ナルニ從ヒ衛生ノ見地ヨリ製氷工場ノ復興ヲ急務ト
 シ不取敢運送門外七里街九號水廠ヲ支那人ヲシテ經營セシムルコトニ
 決セリ同工場ハ民國二十一年成立セルモノニシテ一日ノ製造能力四噸
 製氷用水ハ水通水ヲ用ヒス榮産ノ水ヲ使用ス

茲ニ進實問題ニ關シ一言スレハ鹽務總局ノ進出ハ重慶ノ清浄ヲ促進ス
 ルニ在ルカ故ニ本報館モ之ニ應ジ日本商店ニシテ支那人ニ對シ商品ヲ
 販賣スル者ハ單票ニ限リ販賣セシムルコトセルカ重ノ移動アリ單票
 ト金圓ノ交換事情ヲ缺キ小商人ニシテ單票ヲ多ク所持シ新ニ商品ノ任
 入ニ困難ヲ感スル者漸ク出テ本報館ニ對シ之カ斡旋由體アリタル爲師

那派遣軍ノ指ムニ基キ今後ハ側面經理部ニ於テ憲兵及ハ軍隊ノ證明ア
 ルモノニ限リ而宜邦價ト交換シ得ルコトト、レリ三月下旬南京ニ於ケ
 ル支那人ニ對スル物資販賣指定而二十一軒ノ調査ナルモノヨレハ重慶
 手持總額約二萬圓ナリシ主トテ小商人ナル爲相當分難得ヲ來セ
 ルモノノ如シ
 最後ニ日本人進出状況ハ一、在重邦人數七二二名二、營業許可數一八
 一件三、開業數一〇五件ニシテ詳細ハ以下統計ノ如シ

前住所別人口統計表（三月末日現在）

前住所別	男女別		計
	男	女	
揚子江上流地方	一〇二	三九	一四一
上	一五二	四七	一九九
地	一四七	一二五	二七二
朝鮮及臺灣	八	一八	二六
其			
（北支）大連一	二六	五八	八四
計	四三五	二八七	七二二

營業許可數及開業、未開業別調査表

（三月末日現在）

營業別	許可數	開業數	未開業數	備
麵粉工場	一			
貿易商	三	一	四	

百貨店業	映畫演戲場	浴場	豆腐製造業	皮革卸商	化粧品販賣商	理髮及部分	齒科醫師	醫師	會計師	皮革商	書籍文具商	印刷業	織布商
一	二	一	一	一	四	二	二	三	五	二	二	一	一
		一				二	一		二	一	一		一
一	一	一	一	一	四		一	三	三	一	一	一	

保險業	倉庫業	大工左官業	靴製造販賣業	菓子製造販賣業	寫真攝影器具商	自動車商	自轉車商	電氣器具商	金物陶磁器商	建築材料商	土木建築業	自動車修理業	自動車運輸業	道路運輸業
一	一	一	二	六	八	二	二	一	二	一	三	一	七	一
			二	一	五				二				二	一
				五	三	二	一	一		一	三	一	五	

洗滌染色業	理髮業	計
二	三	一八一
一	三	一〇五
一		八三

洋服小間物	海產物商	鮮魚商	喫茶店營業	咖啡店營業	飲食店業	製冰業	貨運業	料理屋業	旅館業	留聲古物商	酒類飲料水商	食料品商	雜貨商	洋服商
二	二	三	三	六	三一	二	六	四	四	一	二	二	一五	二
		二	一	四	二五	二	一	三	二		二	一九	六	
二	二	一	二	二	六		一	一	二	一		三	九	二

下宿屋ヲ含ム
藝妓宿屋
豆專六仲

三、公共事業

イ、電氣及水道

電氣及水道ノ兩事業ハ入城以來最早ク其ノ必要施設セラレ實業當初ニ復舊作業ヲ開始セルモノニシテ本年一月一日ヨリ利用セラルル所トナレルカ其ノ詳細ハ前報告ニ記載セル所ナルヲ以テ茲ニ省略ス。然ル本所管轄ハ内外兩面ノ不可避の原因ニ因リ今日迄直達管ノ形式ヲ以テ經營セラル其ノ内原因トハ與中公同ノ人財不足且又内面ヨリ則メテ區域セル者ナル爲支那人ニ對シ稍々苛酷ヲ抱ク者多キト其目録ノ摘要カ大半ヲ占メ其ノ主體ヲ和利トセルモノニシテ其ノ原因ハ設備、輸送力及支那人ニ對スル現物ノ餘額爲軍ノ力ヲ以テニ非レハ到底之レヲ全ウスルヲ得サリシナリ茲三節電ノ交送以來經理部ハ特設部指令ヲ發シ大體三月中ニ與中公同ヲシテ其ノ力ヲシムルコトニ決定セルカ即備進マス翌二年ヶ月延長ノ力ヲシムルニ至レリ。三月中ノ與中公同ノ降格整頓ニ付、丁一口若ニ火力地十名東京發電所所作業ニ從事シ之ト共ニ從來ノ與中公同ハ内外兩面テ專門ニ當シ坂内

ニ移轉セリ從ツテ現在人員ハ事務員所長以下九名技師專員無火力班十名内外線班十三名水道ハ當初ト同シク二十八名ナリ。運轉中ノ事故ニ付テハ三月中旬發賣所内線ニ暴落力飛ヒ込メルトテ付電アリ下旬ニカケテ水道藥品不足ノ爲用水甚シク浸潤セリ。第二節電ハ一方ニ於テハ之ヨリ夏季ニ向フ南京ノ衛生狀態ノ重視シ施設ノ對策ヲ講シツアルモノ本所事務員ニ於テモ當今防疫設備ノ爲却々一政ノ需要ニハ應シ難キ實情ナリ且又貴ノ經營トシテ無償ニテ一政ノ利用ニ開放セラルハ事業ノ經營的意義ヲ浸潤スルモノニシテ一日モ早く與中公同ヲシテ引續カシメ軍特務部ノ監督ノ下ニ經營ノ接收ヲ開始セシムルヲ至望トス。

ロ、通信及交通

(一) 郵便

總案中ノ中支占領地ニ於ケル郵便事務ハ茲三月二十五日ヲ期シ先ツ第一著手トシテ南京ヨリ之ヲ開始セリ郵政宿舍ニ於テラレタル運原路支局モ郵部ノ計畫アル証感ニ依リ移轉シ四月上旬開始ノ見ナリ。

得ルニ至レリ

現在ノ郵便事務ハ普通及普安郵便ノ二種ニシテ大凡四月上旬ヨリ運送、小包及貨物表記郵便物ヲ開始スル豫定ナリ而シテ集配ハ前之ヲハ使用スルモノ郵便用ヒニ管理局及各支局ニ於テ交付ツツアリ三月二十五日ヨリ五日間ノ郵便切手販賣總額ハ九百十八圓六十八錢ヲ計上セリ切手ニ付テハ當部ニ手持ナカリシ爲開局ニ先チ本機關ニ於テ旅行證明ヲ交付鎮江ニ赴カシメ漸ク實際ノ需要ニ應スルヲ待タル次第ナリ。

現在江蘇郵政管理局在京人員ハ管理局二百一三名其ノ他二百四八名合計四百六十一名ナリ。

尙鎮江、揚州、常州、無錫及蘇州ノ郵便事務觀察ノ爲旅行證明ヲ發給セリ。

(二) 電信、電話

三月下旬日本無線電信株式會社當地ノ無線電信事務準備ノ爲京軍通信隊、師團司令部トモ打合セタルニ依リ直ニ適當ナル收受信施設箇所及營業ヲ切セシメ當初軍通信隊ニ近キ舊中央蘇北師團ノ地ヲ決定セルモ營業所ノ關係上結局太平路西方國民大戲院後方ノ地ニジョン・ジョー及事務所ヲ設置シ、營業所ハ太平路舊中華書局ヲ利用シ大體四月上旬事務開始ノ運びニ至レリ、無線電信ニ付テハ海軍ヨリ機件器具ノ補給ヲ受クルコトニ決定セル由ナリ。電話業務ニ付テハ再三上海特派員部長宛技術員派遣方要請セルモ應答ナク且舊電話局ノ復舊ハ相當ノ日子ヲ要スヘキ見込アリタル爲本機關ハ軍通信隊ト協議シ一般ノ需要ニ應スル爲三月十七日午前本機關ニ於テ打合セ會開僅セリ當日出席者ハ軍通信隊、師團司令部兵站司令部、憲兵隊、支那自治委員會及日本領居留會ヲ網羅シ左ノ決定事項ヲ作成セリ。

(4) 電話編局ノ復舊ハ至急ニ困難ナルニ付キ不取手廻轉ヲ以テ民

同ノ治安要綱格上必要ノ最少限度ニ於テ電話ノ附屬ヲ圖ルコト
 (四) 電話總局ノ復舊ハ專特務部ノ方針ニ基キ適當ナル會社ヲシテ復
 舊セシムルコト
 (五) 電話交換所ハ特務機關内ニ設置スルコト
 (六) 電力ノ提供並外線ノ供給ハ軍通信局ノ擔任トスルコト
 (七) 電話機ハ支那側ノ有スルモノヲ特務機關ニテ接收使用ニ供スル
 コト、不足部分ニ就テハ特務機關ニ於テ處置スルコト
 (八) 民間ハ支那側ヲ含ム電話加入希望箇所ハ特務機關ニ於テ選擇
 スルコト

之ニ依リテ本機關ハ不取敢自治委員會ノ蒐集セル手廻機ヲ軍通信
 隊ニ移管シ又民間電話要架設備所ヲ作成提出セリ
 次にテ下旬上海特務部ヨリ通信省授手三名派遣アリ一區ノ下屬ニ
 來京セルニ付キ全面的復舊ニ關スル當地ノ要望ニツキ詳細ナル脚
 踏依頼セリ、尙派遣員ノ希望ニ依リ太平路南潤德里ニ在ル電話收
 發所ニハ立入禁止ノ制札ヲ掲出セリ

四バ ス

南京市内ノバス發達ハ本年一月二十五日興中公司宛特務部指令「南
 京市內聯合自動車經營ニ關スル件」ニ基キ久シキ希望ノ中ニ漸ク
 三月十日ヨリ不取敢新車二臺ヲ以テ運轉ヲ開始スルニ至レリ
 其ノ運行區路ハ第一路線ヲ南京驛ヨリ新街口經田中山門ニ至ル往
 復トシ第二路線ハ南京驛ヨリ同シク新街口經田中山門ニ至ル往
 復ニシテ列車發着ニ連絡スルヲ目標トシ始發午後六時四十分、
 終發午後七時ニシテ其ノ間約一時間毎ニ運轉ス、料金ハ全線ヲ六
 區ニ分チ一區五錢、車人ハ半額トス、尙兵站館ノ需要多キ爲バ以
 一區ノ貸切料一時間六圓トシテ提供セリ
 其ノ營業狀況ヲ見ルニ常ニ滿員ノ盛況ヲ呈シ一日ノ走行料數
 九百九十軒、ガソリン使用量九四四ガロン、支那人運轉手並文車掌
 (支那人)ヲ使用シ一日平均收入約六三圓ヲ示セリ
 南京ニ於ケル交通機關ハバスヲ唯一ノ生命ナルカ故ニ之カ不足
 ハ一般ノ交通痛感セル所ニシテ適日興中公司取締役來京ノ節モ其

情報々説明シ同感ヲ至急手配スヘキ旨ノ書質ヲ得タルニ付キ四月
 上旬ニハ増車ノ可能性アルモノト期待セラル